

私の大好きな町 茶屋町 新聞

発行者
倉敷市立茶屋町小学校
6年3組
(豊田莉央)

発行日
令和(6)年
(8)月(2)日

魚春

茶屋町には、明治三十一年創業の魚屋さん「魚春」があります。私の祖父は魚春のお刺身を毎日食べているほど魚春の大ファンです。令和五年には創業百二十五周年祭というイベントをされたいいて、私も遊びに行きました。魚春の大勢のフンの方々にぎわっていました。私の両親も魚春のお刺身を食べるとスーパのお刺身は食べられないという魚春のお魚をぜひ食べてみて下さい。

茶屋町の鬼

茶屋町と言えは鬼、鬼と言えは茶屋町と言われるくら

い茶屋町の秋まつりは鬼で有名です。言い伝えによると二百五十年も前から茶屋町のお祭りに氏神様をお守りすると言いつことから出るようになったと言われています。おそろしいと言った鬼ではなく、どこかひょうきんなにくめない雰囲気を持った可愛い鬼だと言われています。戦後の昭和三十年を過ぎたころからその姿を消していきました。昭和五十年に発足した茶屋町の鬼保存会の手によって、再び鬼まつりの復活となりました。地域の行事で秋まつりの時には、おみこしをかついだ子ども達と一緒に鬼も歩いて地域をまわります。茶屋町駅前広場には鬼の像があり、私が通う茶屋町小学校の校舎も鬼をイメージした校舎になっています。

干拓

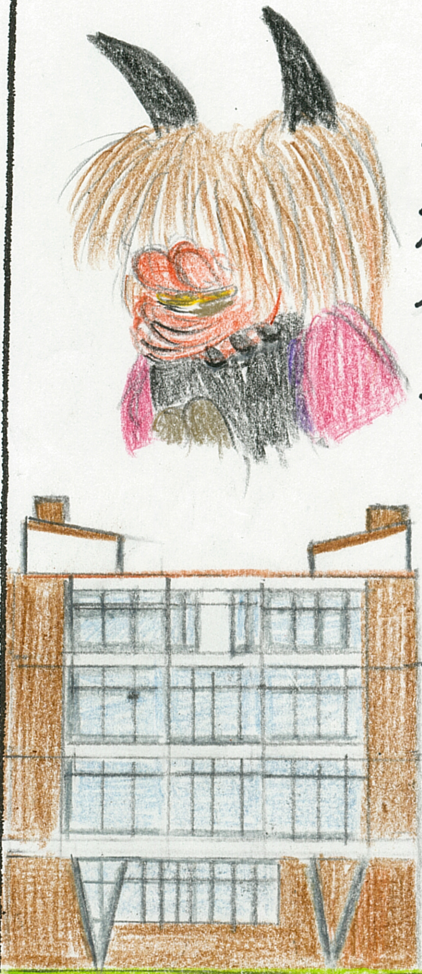
昔は海。茶屋町はむかしは海で、茶屋町一帯の海は穴の海と言われていました。千石船が東西に通う航路であったといひます。私の曾祖母も昔、船にのりお嫁にきたと聞きました。

日本でもとも古いと言われる日本書紀に、日本武尊が西国の熊襲を退治しての帰り道、吉備の国にさしかかり、穴の海で悪者をこらしめたという話があります。そのころ、中国の漢の人々が日本にやって来て吉備や見島に住みついたことからこの地方を漢海(あやのうみ)と言っていました。それがいつのまにか穴の海と言われるようになったのです。この穴の海、つまり見島水道は古くから、主要な航路で往来が多かったようです。干拓という大工とで海はいつしかこがね波うつ稲ほの広がる田園に変わっていきます。

茶屋町近くの町や村にも海に関係のある地名が多いのはむかし海であったことの証拠のようです。

茶屋町の話を茶屋町で生まれ育ったおじいちゃんに聞くと、東陽中学校前の川には昔、船が行き来していた、いおばあちゃんはその船で嫁にきたと教えてくれました。今では全く想像もできませんが早島のマルナカのあたりまで船が行っていたそうです。茶屋町近くの地名が海に関係していることも初めて知りました。

編集後記



早島 見島 八浜 早沖 羽島